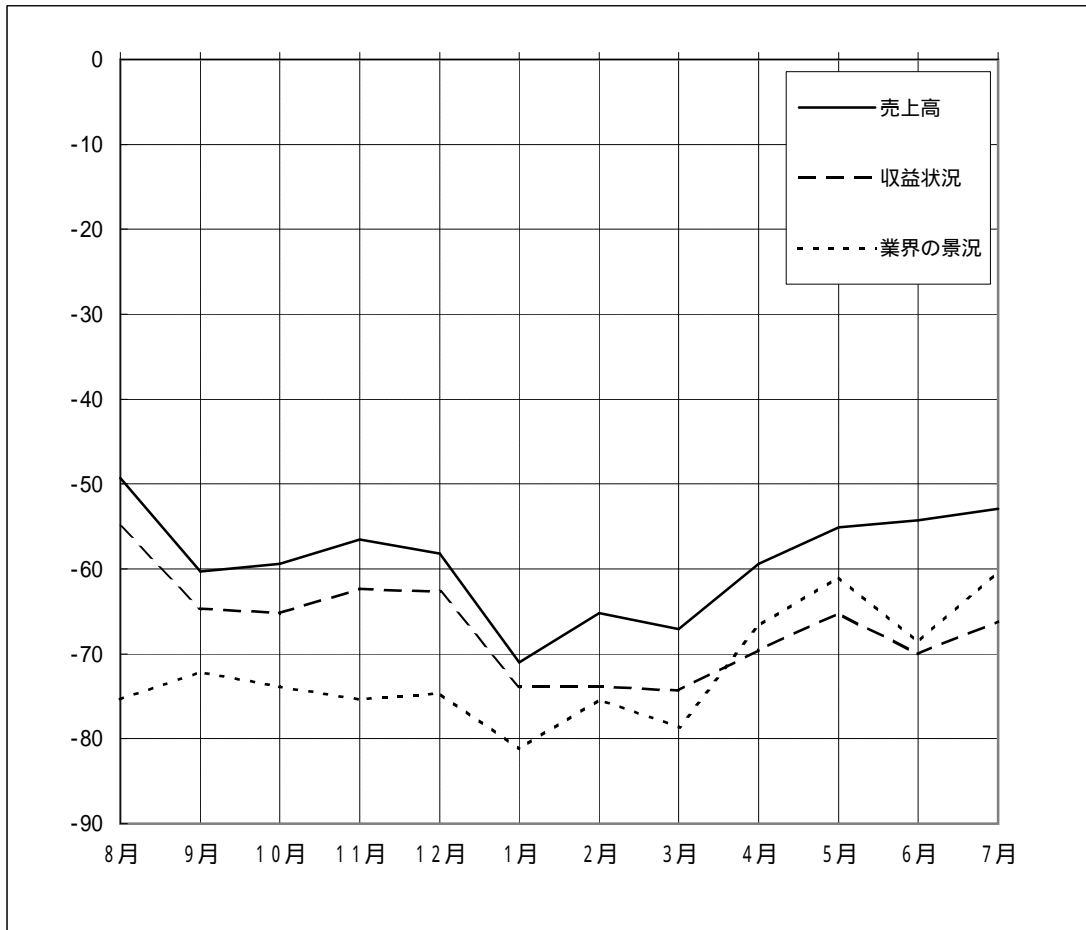


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年8月～平成14年7月

単位:ポイント



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	-49.3	-60.3	-59.4	-56.5	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9
収益状況	-55.1	-64.7	-65.2	-62.3	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2
業界の景況	-75.4	-72.1	-73.9	-75.4	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3

7月のDI値をみると、3項目全てが前月より改善された。

「景況」は前月より8.3ポイントの改善で-60%台となり、昨年4月以来に-50%に近づいた5月をも上回り過去1年間での最高値となった。また、「売上高」は1.4ポイント改善され、4ヶ月連続の改善で-50%台を維持、「収益状況」も3.8ポイントの改善で、5月の水準の-60%台に戻ったものの、景況感の改善の割に売上高・収益状況が伸びていない現状から、中小企業の業況は、依然として低水準を脱し切れず、厳しい状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、不変とする割合が変わらない中で、前月に引き続き「一般機器」で好転がみられたが、「鉄鋼・金属」「繊維・同製品」「木材・木製品」で悪化の割合が高く、また、非製造業では、不変とする業種が増えた中で、好転した業種がみられず、総体的には製造業より悪化の割合が低くなったものの、「鉱業」「卸売業」「商店街」「建設業」で悪化傾向が顕著である。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「木材・木製品」を含めた製造業では、受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他「一般機器」では若干景況感が出てきている報告、「商店街」「卸売業」「小売業」を含めた非製造業では、価格競争の激化や季節商品を含めた個人消費の低迷等の報告の中で、一部の商店街では大型店の進出計画等での将来的な危機感等の報告もされている。総体的には業種を問わず先行きの不安感・不透明感を含め厳しい現況が窺われる。